

## VI 学校と地域

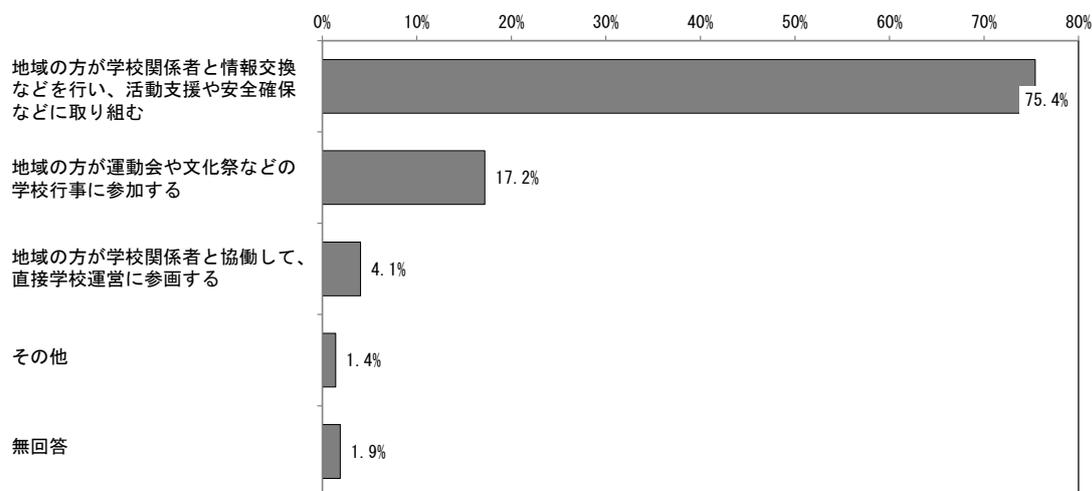
- 「学校と地域」の関係について、教員、保護者、学校評議員に聞くことで、学校活動に地域と家庭がどのように関わるべきと考えているのか把握することにした。
- 調査の結果、教職員は、地域と学校の関わり方について「情報交換と活動支援など」と回答した割合が高く、地域が学校運営に直接関わることを望む回答は低い割合となっている。
- それに対して、学校評議員は、「保護者の学校教育活動や地域の行事への積極的な参加」や「家庭や地域の人による授業への協力」など、地域や保護者が学校の取組みに参画する必要があると回答する割合が高くなっている。  
一般県民は、「家庭や地域の人による授業への協力」や「学校、家庭、地域が協力して行事などをつくる」などの連携が必要であると回答する割合が高くなっている。  
学校評議員、一般県民共に「学校の様子や地域の取組みがお互いによくわかるようにする」とする回答が最も高くなっている。
- 保護者と一般県民ができる地域活動として、「子どもへのあいさつなどの声かけ」、「登下校時などの子どもの安全確保への協力」、「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」と回答する割合が高くなっている。  
回答の割合が最も高い項目を前回調査と比較すると、平成17年度調査結果では一般県民は「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」となっている。

## VI - 1 学校への地域の望ましい関わり方

教職員に『学校への地域の望ましい関わり方』について聞いたところ、「地域の方が学校関係者と情報交換などを行い、活動支援や安全確保などに取り組む」、「地域の方が運動会や文化祭などの学校行事に参加する」、「地域の方が学校関係者と協働して、直接学校運営に参画する」の順に回答した割合が高く、「地域の方が学校関係者と情報交換などを行い、活動支援や安全確保などに取り組む」の割合を平成 17 年度調査結果と比較すると、平成 25 年度調査では 75.4%であり、平成 17 年度調査では 75.8%であった。

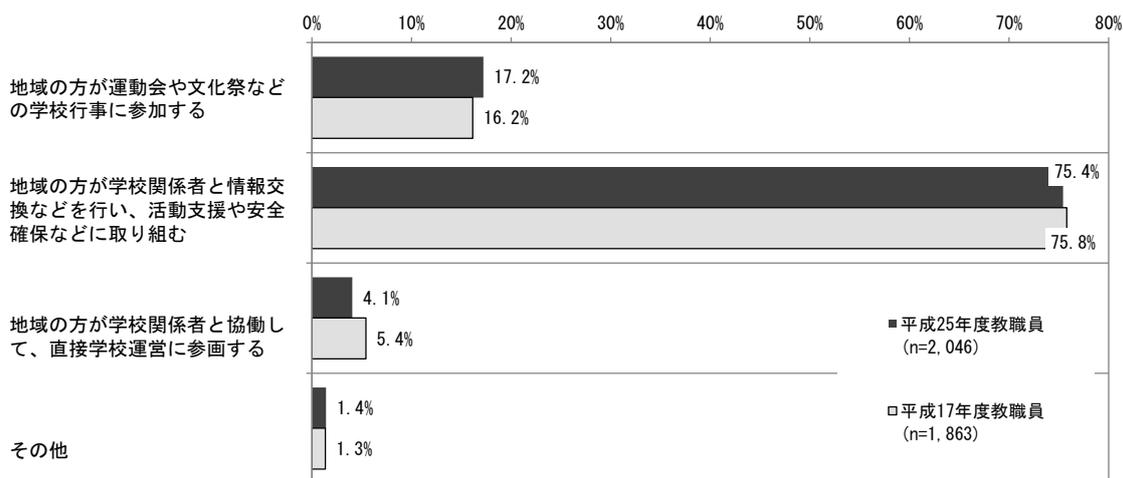
『学校への地域の望ましい関わり方』について教職員に聞いたところ、「地域の方が学校関係者と情報交換などを行い、活動支援や安全確保などに取り組む」(75.4%)、「地域の方が運動会や文化祭などの学校行事に参加する」(17.2%)、「地域の方が学校関係者と協働して、直接学校運営に参画する」(4.1%)の順に回答した割合が高かった。(図VI-1 参照)

図 VI-1 学校への地域の望ましい関わり方(教職員 n=2,046)



『学校への地域の望ましい関わり方』について、平成 17 年度調査結果と比較すると、教職員の回答は平成 25 年度調査では「地域の方が学校関係者と情報交換などを行い、活動支援や安全確保などに取り組む」(75.4%)、「地域の方が運動会や文化祭などの学校行事に参加する」(17.2%)、「地域の方が学校関係者と協働して、直接学校運営に参画する」(4.1%)であり、平成 17 年度調査では「地域の方が学校関係者と情報交換などを行い、活動支援や安全確保などに取り組む」(75.8%)、「地域の方が運動会や文化祭などの学校行事に参加する」(16.2%)、「地域の方が学校関係者と協働して、直接学校運営に参画する」(5.4%)であった。(図VI-2 参照)

図 VI-2 学校への地域の望ましい関わり方(教職員)



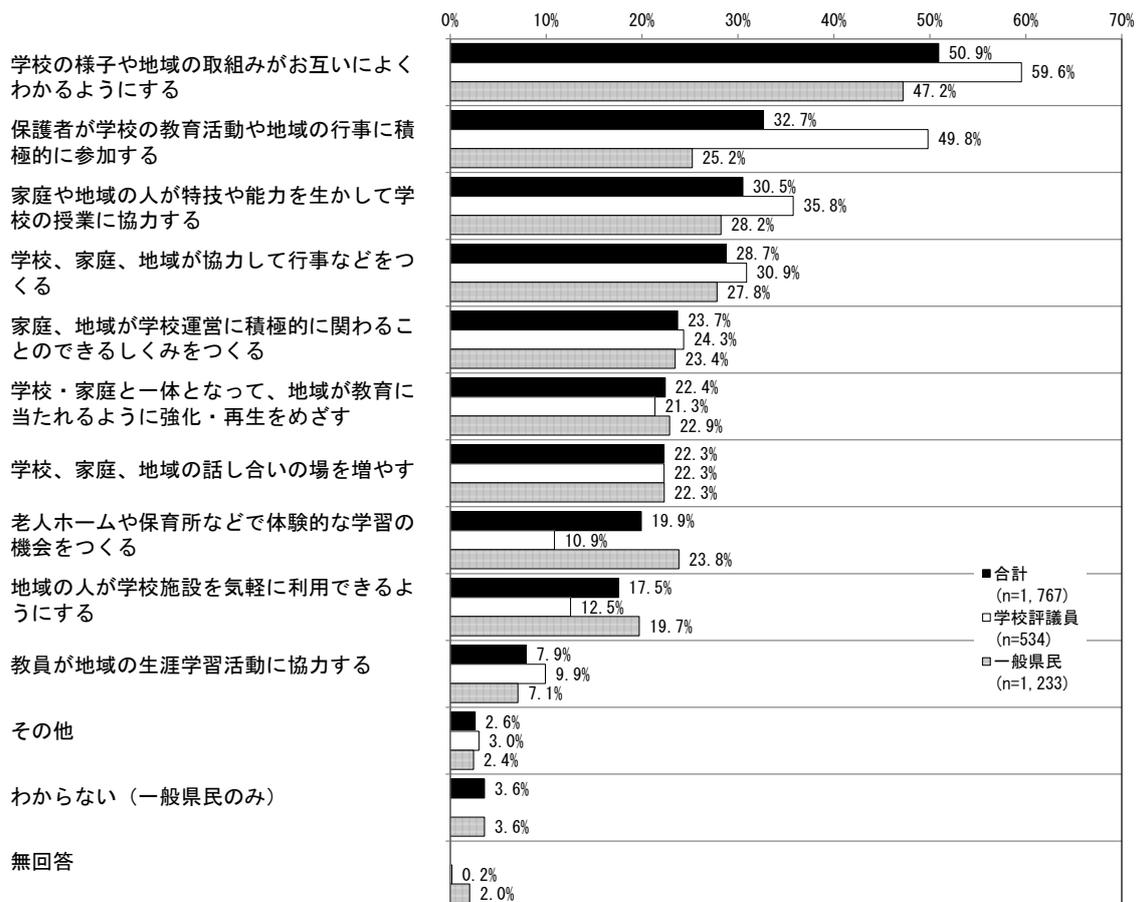
## VI - 2 学校、家庭、地域との連携

「子どもの教育のために、学校、家庭、地域の連携協力で必要なこと」について学校評議員と一般県民に聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、学校評議員では、「学校の様子や地域の取組みがお互いによくわかるようにする」、「保護者が学校の教育活動や地域の行事に積極的に参加する」、「家庭や地域の人が特技や能力を生かして学校の授業に協力する」であり、一般県民では、「学校の様子や地域の取組みがお互いによくわかるようにする」、「家庭や地域の人が特技や能力を生かして学校の授業に協力する」、「学校、家庭、地域が協力して行事などをつくる」であった。

また、『学校、家庭、地域との連携』について、回答の割合が最も高かった項目を平成17年度調査結果と比較すると、学校評議員と一般県民の回答は、いずれの調査においても、「学校の様子や地域の取組みがお互いによくわかるようにする」の割合が最も高く、平成25年度調査では学校評議員 59.6%、一般県民 47.2%であり、平成17年度調査では学校評議員 56.9%、一般県民 50.0%であった。

『学校、家庭、地域との連携』について学校評議員と一般県民に聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、学校評議員では、「学校の様子や地域の取組みがお互いによくわかるようにする」(59.6%)、「保護者が学校の教育活動や地域の行事に積極的に参加する」(49.8%)、「家庭や地域の人が特技や能力を生かして学校の授業に協力する」(35.8%)であり、一般県民では、「学校の様子や地域の取組みがお互いによくわかるようにする」(47.2%)、「家庭や地域の人が特技や能力を生かして学校の授業に協力する」(28.2%)、「学校、家庭、地域が協力して行事などをつくる」(27.8%)であった。(図VI-3 参照)

図 VI-3 学校、家庭、地域との連携(学校評議員、一般県民)



『学校、家庭、地域との連携』について、回答の割合が高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、学校評議員の回答は平成 25 年度調査では「学校の様子や地域の取組みがお互いによくわかるようにする」(59.6%)、「保護者が学校の教育活動や地域の行事に積極的に参加する」(49.8%)、「家庭や地域の人が特技や能力を生かして学校の授業に協力する」(35.8%)であり、平成 17 年度調査では「学校の様子や地域の取組みがお互いによくわかるようにする」(56.9%)、「保護者が学校の教育活動や地域の行事に積極的に参加する」(46.0%)、「家庭や地域の人が特技や能力を生かして学校の授業に協力する」(38.8%)であった。一方、一般県民の回答は平成 25 年度調査では「学校の様子や地域の取組みがお互いによくわかるようにする」(47.2%)、「家庭や地域の人が特技や能力を生かして学校の授業に協力する」(28.2%)、「学校、家庭、地域が協力して行事などをつくる」(27.8%)であり、平成 17 年度調査では「学校の様子や地域の取組みがお互いによくわかるようにする」(50.0%)、「保護者が学校の教育活動や地域の行事に積極的に参加する」(30.7%)、「学校、家庭、地域の話し合いの場を増やす」(26.8%)であった。(図 VI-4, 5 参照)

図 VI-4 学校、家庭、地域との連携(学校評議員)

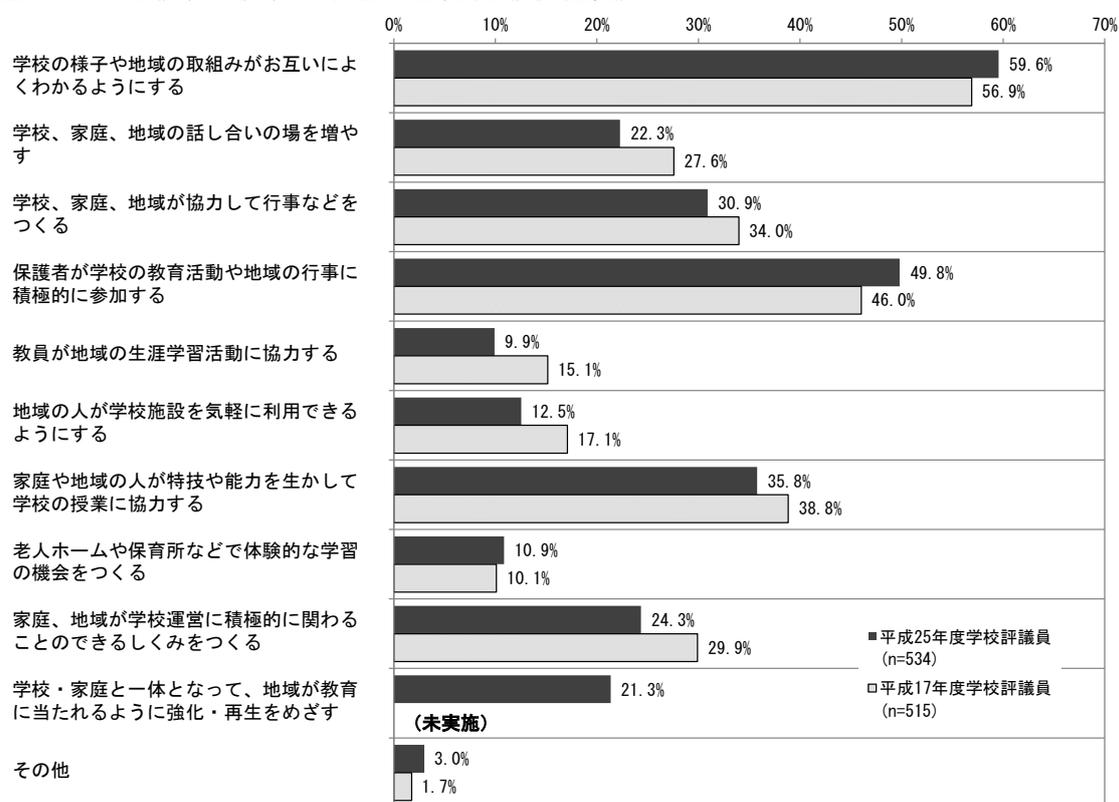
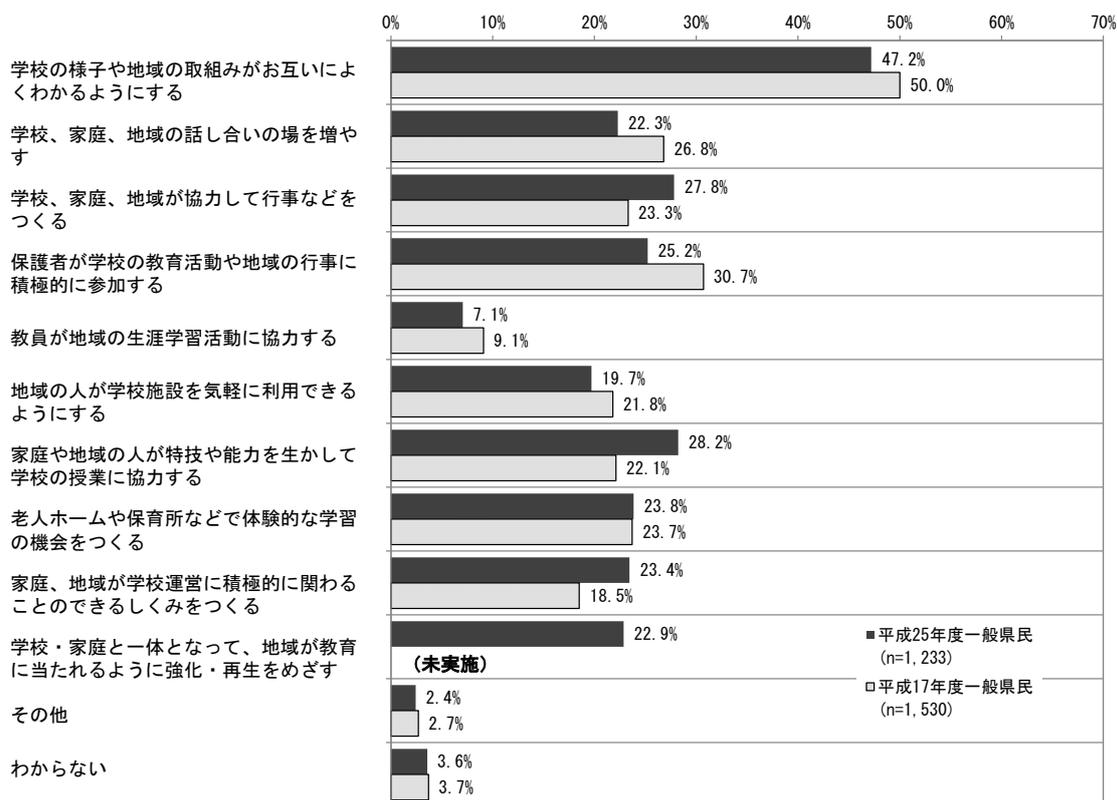


図 VI-5 学校、家庭、地域との連携（一般県民）



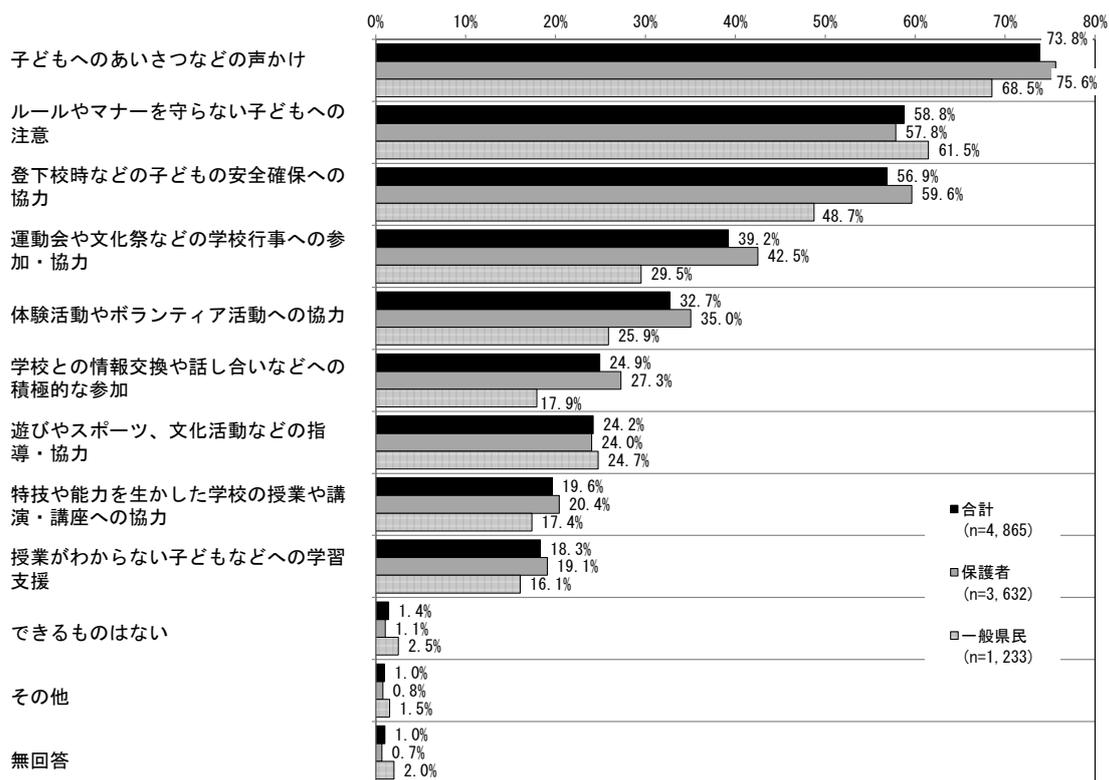
### VI - 3 地域で活動できること

保護者と一般県民に、『地域で活動できること』について聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、保護者では、「子どもへのあいさつなどの声かけ」、「登下校時などの子どもの安全確保への協力」、「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」であり、一般県民では、「子どもへのあいさつなどの声かけ」、「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」、「登下校時などの子どもの安全確保への協力」であった。

また、『地域で活動できること』について、回答の割合が最も高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、保護者の回答は平成 25 年度調査では「子どもへのあいさつなどの声かけ」(75.6%)であり、平成 17 年度調査では「子どもへのあいさつなどの声かけ」(71.3%)であった。一方、一般県民の回答は平成 25 年度調査では「子どもへのあいさつなどの声かけ」(68.5%)であり、平成 17 年度調査では「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」(59.2%)であった。

『地域で活動できること』について保護者と一般県民に聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、保護者では、「子どもへのあいさつなどの声かけ」(75.6%)、「登下校時などの子どもの安全確保への協力」(59.6%)、「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」(57.8%)であり、一般県民では、「子どもへのあいさつなどの声かけ」(68.5%)、「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」(61.5%)、「登下校時などの子どもの安全確保への協力」(48.7%)であった。(図VI-6 参照)

図 VI-6 地域で活動できること(保護者、一般県民)



『地域で活動できること』について、回答の割合が高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、保護者の回答は平成 25 年度調査では「子どもへのあいさつなどの声かけ」(75.6%)、「登下校時などの子どもの安全確保への協力」(59.6%)、「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」(57.8%)であり、平成 17 年度調査では「子どもへのあいさつなどの声かけ」(71.3%)、「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」(56.7%)、「登下校時などの子どもの安全確保への協力」(52.6%)であった。一方、一般県民の回答は平成 25 年度調査では「子どもへのあいさつなどの声かけ」(68.5%)、「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」(61.5%)、「登下校時などの子どもの安全確保への協力」(48.7%)であり、平成 17 年度調査では「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」(59.2%)、「子どもへのあいさつなどの声かけ」(58.8%)、「登下校時などの子どもの安全確保への協力」(41.0%)であった。(図VI-7,8 参照)

図 VI-7 地域で活動できること(保護者)

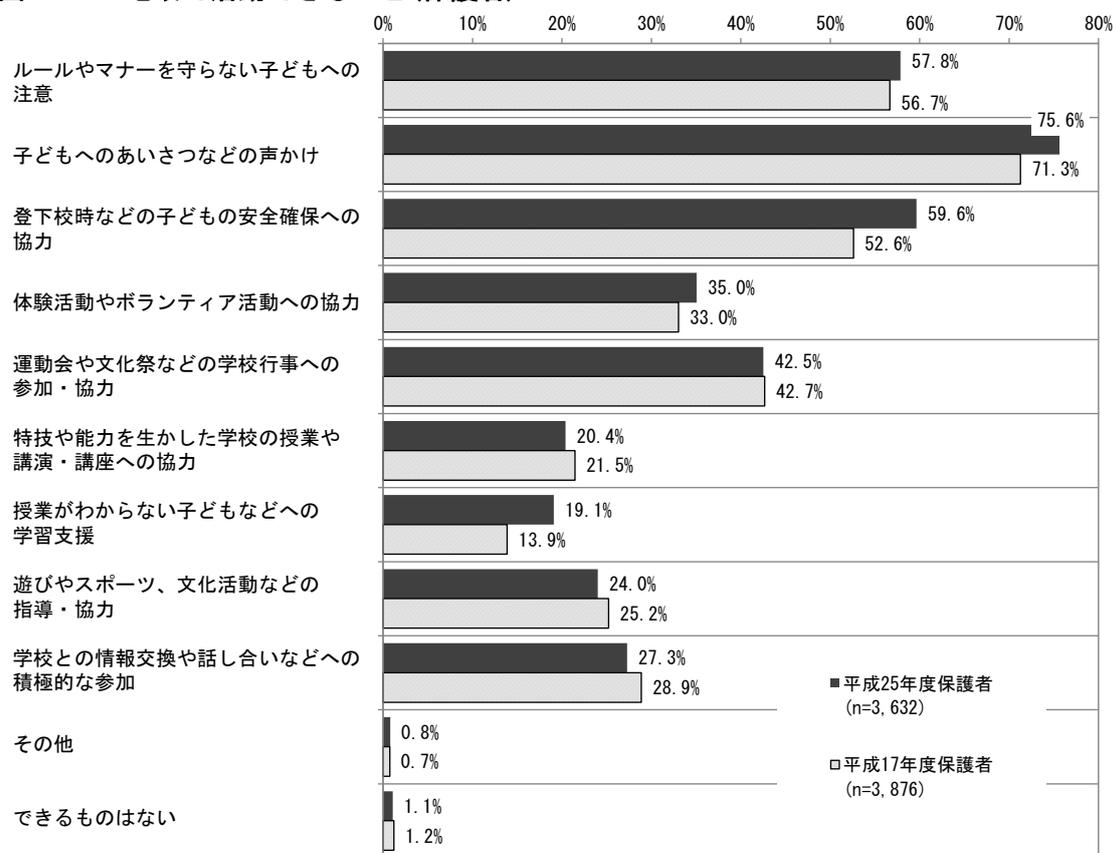


図 VI-8 地域で活動できること(一般県民)

